

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立高木瀬小学校
1 前年度 評価結果の概要	・中間評価で2項目であったA評価が、最終評価では6項目となり、保護者アンケートや外部評価でも学校教育活動に対して高い評価を得ることができた。全職員が学校教育目標を念頭に置きながら児童に寄り添うことを第一に考えて日々の教育活動に取り組んできた成果であるとする。 ・「時を守り 場を清め 礼を正す」は達成できていると自己評価した児童が8割に達したが、実際の行動を見ると時間を守れていない現状があった。また「履物そろえ」や「挨拶」は家庭での評価が低く、日常的に実践できていないことが窺えた。学校での取組内容を精査していくと共に、保護者と共 有して理解と協力を得ながら目標達成を目指していく必要がある。 ・今年度から重点目標に掲げた「自分で考え、自分で決める」をより強く意識し、生徒指導や教育相談を始め、様々な支援・指導場面に取り入れていくことで、児童の当事者意識や主体性を育んでいきたい。

2 学校教育目標	全児童に未来社会をしなやかに生き抜く力（主体性・当事者意識・確かな学力）を育む ～「時を守り 場を清め 礼を正す」を土台に、「自分で考え、自分で決めて、自分から行動する」指導・支援を手立てとして～
----------	---

3 本年度の重点目標	○「時を守る」⇒「時間を守る」    ○「場を清める」⇒「無言無音そうじ」    ○「礼を正す」⇒「あいさつ・返事」の指導をていねいに根気強く行う。 ○「自分で考え、自分で決めて、自分から行動する」⇒伴走支援の言葉かけで対応する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○児童が主体的に学習に取り組める授業づくり	○校内研究に主体的に当事者意識をもって取組み、全授業者が、学習課題を立てた単元学習を実践することができる。	・各教科における、学習課題を立てた単元づくりについて効果的に学べるよう参加型等の職員研修の場を設ける。 ・昨年に引き続き、「ミニ研」制度を継続し、職員間で授業公開する中で研鑽を積む。 ・負担にならないように、校内研の時間に学年単位で教材研究をする時間を設ける。							まなび部(研究部)	
	○児童の発達段階に応じた、自主性・主体性を育む家庭学習の指導	○「自分に必要な内容を考えて家庭学習に取り組んでいる」と答える児童を80%にする。	・低学年では、宿題に自主的に取り組む習慣づくりを重視する。毎日の宿題確認、家庭でできない児童への支援を行う。 ・中学年からはeライブラリの難易度や回数・量を児童自身が選択できるようにする。 ・高学年からは宿題を週単位で課すことで取り組む時期を選択できるようにすると共に自身に必要な学習を考えさせる。							まなび部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動を積極的に行ったと回答する教師を85%以上にする。	・「ほめほめタイム」で、週に5人以上の児童を紹介する。 ・命や人権について多様な考えに触れることのできるよう他学級で心に響く話をする。 ・平和週間等には、児童が当事者意識をもって考えることのできる取組を行う。 ・各種避難訓練は当事者意識をもって取組ませ、自分の命を自分で守ることのできる資質能力を育む。							こころ部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている。」と答える児童を90%以上にする。 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上にする。	・毎月「こころのアンケート」を実施し、児童の心の状態を把握する。記載内容には全て対応し、早期解決を図る。学年ノートで簡易報告をする。 ・教育相談週間を設定し、全児童との相談時間を設けることで事業の早期発見につなげる。 ・気がかりな件については個別対応を継続し、毎月の生指相会議で職員の情報共有を図る。							こころ部	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「歩いて登校している」と答える児童を92%以上にする。 ○「週1日以上外で元気に遊んでいる」と答える児童を85%以上にする。	・保健委員会を中心に、全校放送で呼びかけたり、登校を促すような取組を実施する。1・2学期末に、歩いて登校できた児童を挙手で確認する。 ・運動委員会を中心に、スポーツチャレンジ週間を設定する。1・2学期末に達成した児童の数を確認する。							からだ部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・データの共有化や資料の整理、職場環境の整理整頓を進め、業務の効率を上げる。 ・事業の早期対応と徹底対応により、困難事案にならないようにする。 ・長期休業中の研修は効率的に行う。							教頭	
●特別支援教育の充実	○個別的教育支援計画や個別の指導計画に基づいた個に応じた指導・支援を行う。	○個別の指導計画に取組や成果を定期的に記入し、指導・支援に活用する。	・生指相会議で共有と記録の時間を取り、100%記録できるようにする。 ・学校生活支援員、特別支援学級支援員の業務記録を回覧することで児童の状態や支援、その効果を共有する。							こころ部 (特別支援CO)	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
◎志と誇りを高める教育	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○自分たちでルールメイキングを行う	・キャリアパスポートを活用しながら、学期終了後や1年後にどんな自分になりたいのかを考えたり、振り返ったりする機会を設ける。 ・形骸化していた「みんなのきまり」や「レインボー作戦」等を自分たちで内容を見直し、自分たちのことは自分たちで決める大切さや良さを体感する。							指導教諭・主幹教諭 くらし部	

●・・・県共通    ○・・・学校独自    ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------